令和６年度　学校自己評価計画

石川県立金沢西高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度 判断基準	判定基準	備考
1 ＧＩＧＡスクール構想の充実に向け、ＩＣＴの効果的な活用を通じ、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に努め、生徒の主体的な学びおよび確かな学力の育成を図り、進路実現につなげる。	① ＩＣＴの効果的な活用とともに、研究授業、相互参観授業を通して授業改善を図り、探究的な学習活動や質の高いグループ活動を取り入れた授業を実施する。	教務課	授業において生徒がChromebookを利用できる頻度は増え、生徒による後期授業評価アンケートの「効果的なＩＣＴの活用など工夫された授業が行われている」の項目でＡ評価は約５４．６％であった。さらに効果的なChromebookの活用を各教科で研究し、授業改善を図る必要がある。	【努力指標】 これまで以上に全教員がＩＣＴを活用した授業を実践し、研究授業や相互参観授業に取り組み、授業評価におけるＡ評価を６０％以上にする。	「効果的なＩＣＴの活用など工夫された授業が行われている」の項目においてＡ評価が Ａ　６５％以上 Ｂ　６０％以上 Ｃ　５０％以上 Ｄ　５０％未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	生徒による授業評価アンケートで評価
			生徒による後期授業評価アンケートの「授業を通じて学力がついてきている」の項目で肯定的評価は８５．７％であった。主体的・対話的で深い学びを追究し、生徒の自己肯定感を高め、確かな学力の育成を図りたい。	【努力指標】 学力がついてきているという肯定的評価が高まり、成績に反映するようにこれまで以上に、質の高いグループ活動及び探究的な学習活動を実施する。	「授業を通じて学力がついてきている」という肯定的評価が Ａ　８８％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７５％以上 Ｄ　７５％未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	生徒による授業評価アンケートで評価
	② 「総合的な探究の時間（西高プロジェクト）」の活動を通して、主体的・探究的・協働的に学び活動する態度を養う。	進路指導課	昨年度は１，２年合わせて約９３．５％と高評価であったが、「主体的」「探究的」「協働的」な取組のうち、今年度は「探究的」態度をさらに伸ばしたい。	【満足度指標】 生徒がプロジェクトに対して年間を通じて主体的・探究的・協働的に取り組むことができたと感じている。	生徒アンケートで「主体的・探究的・協働的に取り組んだ」とする肯定的評価が Ａ　９５％以上　　Ｂ　９０％以上 Ｃ　８５％以上　　Ｄ　８５％未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の振り返りの時間にアンケートを実施して評価
	③ 家庭学習時間量調査を実施して現状を把握・分析し、指導することで進路実現に向けた学習時間の確保を促す。	教務課	生徒による学習時間量調査の結果によると、目標を達成している生徒の割合は１１月調査で４４．０％であった。すべての学年で改善のための方策を検討していく必要がある。	【成果指標】 目標とする家庭学習時間を「学年＋１時間」に設定し、達成する生徒の割合を４０％以上にする。	家庭学習時間が「学年＋１時間」に達している生徒の割合が Ａ　６０％以上 Ｂ　４０％以上 Ｃ　２０％以上 Ｄ　２０％未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	家庭学習時間量調査で評価
	④ 校外模試のデータを教科と学年が連携をとって分析し、方策を検討することで、学力向上に結び付ける。	進路指導課 １・２学年	昨年度１月の校外模試で３教科型偏差値５２以上の生徒の受験者全体に対する割合は、１年は２６．９％、２年は２６．１％であった。	【成果指標】 １、２年１月の校外模試で３教科型偏差値５２以上の生徒の受験者全体に対する割合が、４０％以上を目指す。	１，２年１月の校外模試３教科型偏差値５２以上の生徒の受験者全体に対する割合が Ａ　５０％以上　　Ｂ　４０％以上 Ｃ　３０％以上　　Ｄ　３０％未満 ※１・２年別に達成度を判断する	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	当該模試の結果で評価
		進路指導課 ３学年	昨年度３年の１０月校外記述模試で平均偏差値５０以上の生徒が３０．７％、１１月共通テスト模試で総合偏差値５２以上の生徒の受験者全体に対する割合が１９．４％であった。	【成果指標】 ３年１０月校外記述模試で平均偏差値５０以上の生徒、１１月共通テスト模試で総合偏差値５２以上の生徒の受験者全体に対する割合が、それぞれ、３０％以上を目指す。	１０月の校外記述模試及び、１１月の共通テスト模試総合偏差値平均偏差値５０以上の生徒の受験者全体に対する割合が Ａ　３０％以上　　Ｂ　２５％以上 Ｃ　１５％以上　　Ｄ　１５％未満 １１月の共通テスト模試総合偏差値平均偏差値５２以上の生徒の受験者全体に対する割合が Ａ　３０％以上　　Ｂ　２５％以上 Ｃ　１５％以上　　Ｄ　１５％未満		
	⑤ 進路学習・探究活動を充実させることで、高い進路目標を持たせ、最後まで目標実現のため努力を継続させる指導を行う。	進路指導課	昨年度の合格者数は①金沢大学１３名、②北信越地区国立大学３９名、③北信越地区公立大学５７名であった。	【成果指標】 右の①～③の評価項目をすべてクリアすることを目指す。	①　難関国立大学、金沢大学に１０名以上合格 ②北信越地区の国立大学に４０名以上合格 ③北信越地区の公立大学に５０名以上合格 Ａ　３項目クリア　　Ｂ　２項目クリア Ｃ　１項目クリア　　Ｄ　クリアなし	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
2 組織的な教育活動を通して、生徒の規範意識を高め、将来の主権者としての自覚を促し、自立した社会人たる判断力・行動力を養う。	① 挨拶運動を通して生徒会執行部と協力し合い、学校全体の活性化を図る。自ら発する伝わる挨拶を実践し、社会人として必要なコミュニケーション能力を養う。	生徒課	昨年度は、生徒アンケート結果から８４％の生徒が積極的に挨拶を行ったと自己評価していたが、一昨年度よりその割合は減少した。集会等を通して、挨拶の励行を呼びかける必要がある。	【成果指標】 学期ごとに行う生徒アンケートで、すべての学期で９０％以上生徒達が挨拶を実行できていると評価できた場合、目標達成とする。	生徒アンケートから、「積極的に挨拶を行った」が Ａ　９５％以上　　Ｂ　９０％以上 Ｃ　８５％以上　　Ｄ　８５％未満	Ｃ、Ｄの場合、指導方法を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
	② 様々な交通安全指導から、自転車乗車マナーの向上を意識し、交通社会の一員としてルールの遵守、安全への配慮等、事故防止に向けた注意力、判断力を身に付けさせる。	生徒課	昨年度累計で、自転車乗車違反件数が８１件と多かった。今年度も継続して自転車乗車のルールやマナーを徹底させていきたい。	【成果指標】 年度末の自転車乗車違反件数累計において、今年度も違反件数一桁を目指すとともに、最低１０件以下で目標達成とする。	自転車乗車違反件数が、年度末累計で、 Ａ　１０件未満　　Ｂ　２０件以下 Ｃ　３０件以下　　Ｄ　３１件以上	Ｃ，Ｄの場合、学年累計を分析し、次年度の当該学年の指導を徹底する。	年度末の実績で評価
	③ いじめは絶対に許されない行為であることを周知し、他者の心情を配慮できる思いやりの心を醸成する。また、未然防止に取り組みながら、居心地の良い学校づくりに努めていく。	生徒課	昨年度、いじめ案件について認知することはなかった。生徒アンケートの「互いに尊重し合える居心地の良い学校であるか」の問いかけには９２％の生徒が「はい」という回答であった。	【成果指標】 生徒アンケート結果において９０％以上の生徒達が居心地の良い学校であると回答すれば、達成とする。	「互いを尊重できる居心地の良い学校であるか」のアンケートから、肯定的評価が Ａ　９５％以上　　Ｂ　９０％以上 Ｃ　８５％以上　　Ｄ　８５％未満	Ｃ，Ｄの場合、評価結果を分析し、指導の在り方や方策を検討する。	生徒による学校評価アンケートで評価

		④	自己管理能力を高めるために、自らの健康問題にしっかりと向き合う態度を養う。	保健相談課 各学年	昨年度歯科受診率は６８．９％であった。歯科受診の重要性を周知させたい。	健康診断後の事後措置を、さらに徹底するとともに、生徒の健康課題意識を向上させ、個別指導等で受診率の向上を図る。歯科受診率を前年度以上とする。	歯科の受診率が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
３	文武両道の実践のもと、部活動の効率的な活動と更なる活性化を図り、心身の錬磨を通して、人間力を高めチャレンジ精神を培う。	①	運動部・文化部の活動環境の支援及び改善を図りながら活動内容を充実させる。	生徒課	昨年度、後期生徒アンケートで、「充実感や達成感を得られる部活動を行えている」と答えた生徒は、８９％であった。３年間の継続を目標に、限られた時間を有効に使い、生徒が達成感を感じられるような活動にする。	【満足度指標】 部活動加入者に対するアンケートの満足度を８０％以上にする。	「充実感や達成感を感じられる部活動が行えているか」の肯定的評価が Ａ　８５％以上　Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上　Ｄ　７０％未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	生徒による学校評価アンケートで評価
		②	運動部・文化部ともに計画的かつ効率のよい練習を行い、好成績につなげる。	生徒課	昨年度の県高校総体総合成績は１９位であった。また、文化部の年間獲得症状枚数は２８枚であった。運動部、文化部とも部活動への取り組みをより充実させて昨年度以上の活躍を期待したい。	【成果指標】 （運動部）県高校総体総合成績の順位によって評価する。女子は１０位以内、男子は１５位以内を目標とする。 （文化部） 各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数によって評価する。	（運動部） 県高校総体総合成績が Ａ　１０位以内　Ｂ　２０位以内 Ｃ　３０位以内　Ｄ　３１位以下 （文化部） 各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数が Ａ　３０枚以上　Ｂ　２０枚以上 Ｃ　１０枚以上　Ｄ　１０枚未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
４	ボランティア等の諸活動や情報の発信を通して、保護者、地域との連携を密にし、信頼され支援される学校づくりを行う。	①	学校教育活動について、ホームページやメール配信、学年通信等による積極的な配信に努め、保護者や地域の方の一層の理解・協力を得る。	教務課 総務課 各学年	保護者による学校評価アンケートの結果によると、肯定的評価は９２％であった。	【満足度指標】 学校の情報提供による満足度を９５％以上にする。	「学校の情報提供は十分に行われている」という保護者が Ａ　９５％以上　Ｂ　９０％以上 Ｃ　８５％以上　Ｄ　８５％未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	保護者による学校評価アンケートで評価
					昨年度、教育ウィーク、進路説明会等の保護者の来校者数はのべ８８９名であった。	【努力指標】 新型コロナウィルス感染対策を講じながら、教育ウィーク、進路説明会等の来校者数を増やす。	教育ウィーク、進路説明会等での保護者の来校のべ人数が Ａ　８００名以上　Ｂ　６００名以上 Ｃ　４００名以上　Ｄ　４００名未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
		③	主体的な学習の基盤となる豊かな知識と思考力・判断力を身につけるため、各分掌や学年、教科と連携し、生徒の読書活動を促進する。	総務課	昨年度１月末までの図書館の貸出冊数は、生徒１人当たり１．６冊で、一昨年度より減少した。	【努力指標】 生徒の読書活動を促進する。	図書館の貸出冊数生徒１人あたり１月末までで Ａ　４冊以上　Ｂ　３冊以上 Ｃ　２冊以上　Ｄ　２冊未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
		④	学年・委員会・部活動による地域貢献や学校行事のサポートを行い、ボランティアへの関心を高める。	生徒課	昨年度、金沢マラソンのボランティア参加人数は１００名であった。	【努力指標】 生徒のボランティアへの関心を促進する。	ボランティア活動に参加した学年・委員・部活動の人数が Ａ　１５０人以上　Ｂ　１００人以上 Ｃ　５０人以上　Ｄ　５０人未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
５	「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」を踏まえ、業務の平準化と見直し・精査・最善を通じ教職員の時間外勤務縮減を推進し、ワークライフバランスを意識した業務改善につながる学校マネジメントを推進していく。	①	定時退庁日等の設定や会議の効率化を図り、タイムマネジメントの意識を高める。また、ワークライフバランスを常に意識し、具体的な取組を実践する。	教頭	昨年度の教職員へのアンケート結果は６７．５％であった。多忙化改善に向けた教職員の意識は向上し、工夫がなされているようだ。さらに教育の質を落とさず、時間外勤務を縮減させる具体的な取り組みを実践する必要がある。	【努力指標】 具体的な取り組みを提案・実践し、教育の質を落とさずに時間外勤務を減少できた教職員の割合を増加させる。	具体的な取組を実践し、時間外勤務が減少した教職員の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　６０％以上 Ｃ　４０％以上 Ｄ　４０％未満	Ｃ、Ｄの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	教職員へのアンケートおよび勤務時間調査で評価